

富山大学 学報

第255号

目 次

関 係 法 令..... 2	富山大学職員成人式..... 4
諸 会 議..... 2	工学部福利施設新営工事..... 5
学 事..... 3	寄 稿〈ガンダーラ美術発掘記〉..... 6
昭和59年度民間機関等との共同研究について..... 3	寄 稿〈遼寧大学雑感〉..... 8
昭和60年度共通第1次学力試験の実施..... 3	寄 稿〈帰国に当って〉..... 10
人 事 異 動..... 3	職 員 消 息..... 11
学 内 諸 報..... 4	主 要 行 事..... 11
海外渡航者..... 4	

関係法令

(官報掲
載月日)

(官報掲
載月日)

規 則

- 人事院規則13-1 (不利益処分について
の不服申立て) の全部を改正する規則
(人事院13-1-1) 1・4

- 大学の学部, 短期大学の学科及び大学の
学部の学科の廃止を認可した件(文部6) 1・14
- 著作権法の規定に基づき, 昭和59年度使
用教科書等掲載補償金額を定める件(文
化庁1) 1・14

告 示

- 大学の名称を変更する件(文部2) 1・14
- 短期大学の名称を変更する件(文部3,4) 1・14
- 大学, 短期大学, 大学の学部, 短期大学
の学科及び大学の学部の学科の設置を認
可した件(文部5) 1・14

- 国の物品等の調達手続の特例を定める政
令に規定する大蔵大臣が定める額を定め
る件(大蔵6) 1・22
- 昭和60年度科学研究費補助金の研究計画
調書の提出期間を定める件(文部11) 1・23

諸 会 議

昭和59年度第6回入学試験管理委員会(1月11日)

(報告事項)

- (1) 第2次の学力検査試験問題冊子の持ち帰りに関
して

(審議事項)

- (1) 昭和60年度富山大学入学試験問題採点委員につ
いて
- (2) 昭和60年度富山大学入学試験調査書審査委員に
ついて
- (3) 昭和60年度富山大学入学者選抜学力検査実施要
項(案)について
- (4) 昭和60年度富山大学入学者選抜健康診断実施要
項(案)について
- (5) 昭和60年度富山大学入学試験における合格者及
び補欠の発表方法について
- (6) 大学案内について
- (7) 昭和60年度富山大学入学試験関係行事予定(案)
について

昭和59年度第9回学寮補導委員会(1月11日)

(報告事項)

- (1) 寮生との「話し合い」の結果について

(審議事項)

- (1) 受験生宿泊について

昭和59年度第9回評議会(1月18日)

(報告事項)

- (1) 昭和60年度国立学校特別会計予算内示について
- (2) 学生の動向について

(審議事項)

- (1) 昭和60年度富山大学入学試験の実施について
- (2) 学長選考管理委員会の設置について

第1回学長選考管理委員会(1月18日)

昭和59年度第5回学園ニュース編集委員会(1月21日)

(審議事項)

- (1) 第47号学園ニュースの発行計画について

昭和59年度第7回附属図書館商議会(1月21日)

昭和60年公開講座第2回委員会(1月22日)

(審議事項)

- (1)工学専門図書室の運営費について
 (2)図書購入費の予算配分(案)について

(議 題)

- (1)昭和60年度公開講座の実施計画について

学 事

昭和59年度民間機関等との共同研究について

部 局	民間機関等	研 究 題 目	研 究 期 間	研究経費 (千円)
トリチウム 科学センター	アロカ株式会社	電離箱材料に対するトリチウムの 吸着(収)―脱離の挙動	60. 2. 16 ～60. 3. 30	1,335

昭和60年度共通第1次学力試験の実施

昭和60年度大学入学者選抜共通第1次学力試験が、昨年より10日ほど繰り下げ、去る1月26日(土)、27日(日)の両日にわたって全国一斉に実施されました。共通第1次の制度が始まって以来本年は第7回目のものであります。

富山県では、県内で受験を志願している者が4,171名(男2,605名、女1,566名)あり、富山大学3,271名(男2,044名、女1,227名)、富山医科薬科大学(富山中部高校で実施)900名(男561名、女339名)でそれぞれ実施されました。

本学では、試験実施委員会で計画された実施体制に基づき、五福地区6試験場において柳田学長を実施本部長とし439名の教職員が試験に携わり、初日は、国語、数学、外国語の3教科、2日目は、社会、理科の2教科を予定どおり終了しました。

なお、本学関係の受験状況は、次のとおりでした。

志願者数	欠席者数	受験者数	欠席率
3,271名	73名	3,198名	2.2%

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容	任命権者
採 用	60. 1. 16	小 林 雄 二		文部事務官(附属図書館)	富山大学長
	60. 2. 1	村 岡 清 忠		臨時用務員(工学部作業員)	〃
臨時的任用	60. 1. 27	西 谷 弘 美		教諭(教育学部附属養護学校)	〃
退 職	〃	山 橋 美 香	事務補佐員(経理部主計課)	昭和60年1月26日限り退職した	〃
	60. 2. 1	松 崎 素 子	〃 (教養部)	昭和60年1月30日限り退職した	〃

 学 内 諸 報

海外渡航者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	教育学部	助教授	西川 友之	スイス	第8回学校スキー国際研究部 会会議出席及びアルプス地方 の野外教育資料の収集のため	60. 1. 11
				オーストリア		60. 1. 30

富山大学職員成人式

昭和60年富山大学職員成人式が、去る1月11日(金)学長室において行われました。

式には、新たに成人となった4名と事務局長、関係部課長及び事務長が出席し、学長から、新成人一人一人に記念品として男子には「努力」、女子には「身も心も美しく」と記された色紙(柳田友道学長揮毫)に額を添えて授与され、引き続き学長の祝辞がありました。これに対して新成人を代表して、工学部の高村浩之君から「社会人として知性と教養を身につけ自己向

上に一層努力したい」旨の答辞がありました。

閉式後、学長室で新成人を囲み懇談会が催され、和やかな雰囲気の中に終了いたしました。

(新成人は次のとおりです。)

経理部	山橋 美香
工学部	高村 浩之
附属図書館	三村 紀子
"	関 衣美子



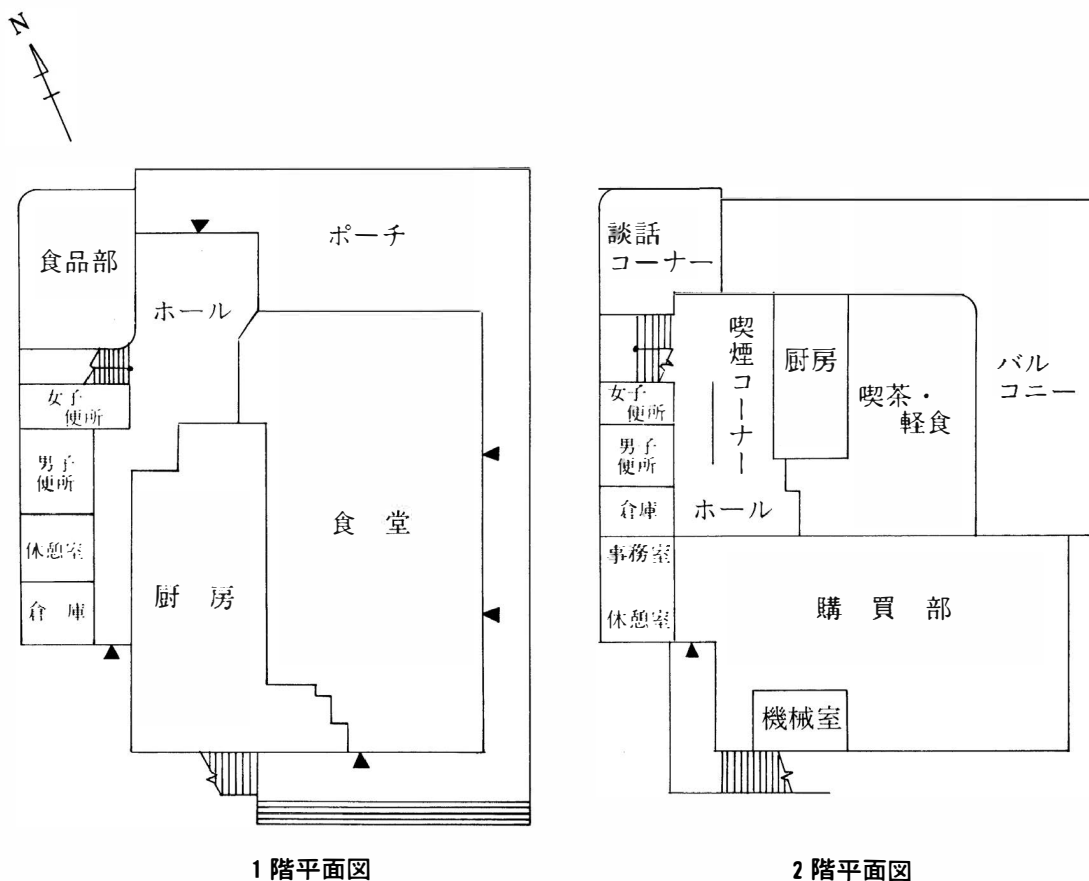
工学部福利施設新営工事

本学工学部福利施設新営工事は、昨年8月着工され
1月に竣工しました。

コロムビア電設工業株式会社 (電 気)
森商事株式会社 (設 備)

請負業者 林建設工業株式会社 (建 築)

建物面積 835m² 2階建



1階平面図

2階平面図

—職員会館の宿泊の御案内—

- ◎利用日……土・日曜日及び祝日も利用できます!!
- ◎申し込み…利用日の2日前までに!!
- ◎門限時刻…午後10時………御協力を………!!

寄 稿

〈ガンダーラ美術発掘記〉

人文学部教授 小 谷 仲 男

私は昭和59年の9月から12月まで、ガンダーラ仏教遺跡の発掘調査に加わり、パキスタンですごしていた。パキスタン航空（PIA）は東京を発って北京を経由し、そのゴタクラマカン沙漠、パミール高原をこえて、パキスタンの首都イスラマバードまで一気に飛ぶ。所要時間約13時間（日本との時差4時間）。日本とパキスタンを結ぶ最短距離である。そこから私たちが発掘宿舎を設けたスワビ地区シェワ村まで車で北へ約4時間。途中アトックというところでインダス河を渡るが、そこから北に広がる盆地が、むかしガンダーラ国とよばれた地域である。ギリシア風仏教美術で有名なガンダーラ美術発祥の地である。現在でも、アトックを過ぎると、以南のパキスタン人とは服装もことばもちがうパシュトゥ族の世界がはじまる。このパシュトゥ人はアフガニスタンの国境に沿って、かなり広範囲に居住し、またアフガニスタンの南半分の土地の住民も、ほぼこのパシュトゥ族に占められている。今その一部がアフガン難民となってパキスタンのパシュトゥ族のあいだに流れこんでいる。遊牧民、農耕民の両方をふくんだ1,000万をこえるこのパシュトゥ族の歴史もよくわからない。シルクロードの謎の民族のひとつである。

私たちはガンダーラ盆地の北を流れるスワート運河ぞいのキャナル・バンガローのひとつを借りきった。イギリス風の設計で、果樹園（オレンジ、カキ、マンゴー）にかこまれたレンガづくりの、天井のたかい壁の厚い建物で、部屋かずも多く、水まわりと台所がすこし不備のほか、電気もあり、私の経験した発掘宿舎としてはぜいたくな方である。ここに10月1日から12月11日まで滞在した。

しかしめざす遺跡はまだ遠い。宿舎を朝7時30分、ジープで出発。でこぼこ道をゆられて40分、山麓のナオグラム村につく。そこから徒歩でけわしい山道を登ることまた40分、ようやく尾根にある仏教遺跡ラニガトにたどりつく。ガンダーラ寺院は、下界をみはらす山腹に位置することが多いが、ラニガトはとりわけ高いところにある。作業開始はどうしても9時になる。

結局この往復を2カ月あまりのあいだ毎日くりかえし、おかげでぜい肉がとれて身軽になった。登山靴もシーズンで破れてしまった。発掘人夫の大部分は麓のナオグラム村人で、生粋のパシュトゥ人。気性あらく、自尊心のつよい人たちである。つきあっているうちに、素朴さ、義侠心おうせいなところが好きになる。多いときは人夫100人、土運び用ロバ40頭を備った。

私たちの調査隊は日本人6名、それにパキスタン考古局から派遣されたパキスタン考古学者1名（パシュトゥ出身）、それに短期間ではあったが、ラホール博物館からもう1名加わった。今回隊長をつとめる西川幸治氏（京都大学教授、建築史）と私の二人は、1960年から1965年まで、故水野清一教授のひきいる京都大学イラン・アフガニスタン・パキスタン学術調査隊に加わって、毎年この地方で数カ月をすごした経験がある。その間に二つのガンダーラ寺院址を発掘している。今回三つ目の寺院址の発掘を手がけることになったわけである。私にとっては20年ぶりのガンダーラ調査となる。20年という長い歳月のあいだ、私の気づかないところに大きな変化がおこっているのかもしれないが、遠くにかすむガンダーラの山なみ、広いムギ畑、背のたかいシュガケン（さとうきび）畑、犁をひくコブウシの田園風景は昔とすこしも変わらない。たしかに車の量は数倍にふえた。しかし昔ながらのタンガ（二輪馬車）でゆきさする人も絶えていない。街道すじのチャイハナのチャプリキャバブやミルクティの味もそのまま。若いころの印象というものは強烈なせい、またたくうちに20年前と現実とが直結してしまい、私はかたことのパシュトゥ語を話しながら、人々のあいだにとけこんでしまった。

ガンダーラ美術がヨーロッパ人の目にとまり、世の中に紹介されたのは1830年代のことである。そのガンダーラ美術にたいするヨーロッパ人の蒐集熱がたかまって、ガンダーラの山間に埋もれていた寺院址は、彫刻めあてにつぎつぎと乱掘されていった。

1896年にガンダーラ美術の調査に訪れたフランスのA・フーシェは、まずヨーロッパ人の古物あさりの中

止させること（1904年になってイギリス領インドに遺跡保存に関する法律と考古局が設立される）、もうひとつの深刻な問題として土地の人々がガンダーラ彫刻の相場を知ったこと、そのお金の魅力は、かれらイスラム教徒を偶像破壊者から、たちまちにして偶像のディーラー(商人)に化してしまったことを述べる。この調子でいくと、将来組織的な発掘調査の期待できそうな、手つかずの遺跡は、もはやどこにも存在しなくなるとなげいている。

たしかにその懸念どおりになった。19世紀から20世紀にかけて、ガンダーラ彫刻は大部分、遺跡から離れて博物館や個人のコレクションに帰してしまった。現在私たちは博物館などで保存のよいガンダーラ彫刻をみることができるが、しかし古物あさりの発掘品では、歴史的価値が失なわれている。彫刻が安置されていた建造物との関係、彫刻どおしの、あるいは絶対年代のわかる貨幣や碑文との出土関係の状況がほとんど不明で、さらには人手をへているうちに、いったいどの遺跡から出土したのかもわからなくなっている。ガンダーラ彫刻が生きていた状況を復元するのは、もはや不可能である。残された道はガンダーラ寺院址の再調査である。無残に破壊された状態とはいえ、石積みによる仏塔や僧房のあとは、いくぶん姿をとどめている。その綿密な、徹底した発掘調査に一縷の望みが託される。わずかな残存を手がかりに全体の復元にこぎつけたい。遺跡を離れた膨大なガンダーラ彫刻も、ばあいによってはその原位置がわかるかもしれない。

1960年代、私たち日本隊が発掘した二つの寺院址では、彫刻と建物、貨幣などの出土関係から、ガンダーラ石彫の大部分はクシャン王朝のカニシュカ（A. D. 144-171）、フヴィシュカ（A. D. 171-203）、ヴァースデーヴァ（A. D. 203-241）の三王の治世に製作されているらしいことをつきとめた。

今回のラニガト遺跡も、この状況をもっと詳しくつかむことを目的とし、今回は3シーズン計画の初年にあたる。ラニガトは1960年代にここを訪れて有望とみなした遺跡であったが、いざ発掘をはじめてみると、盗掘はすみずみまでいきわたり、出土する彫刻は手足、頭をとられてトルソと化した仏、菩薩像、細片となった浮彫ばかり。どうやら人夫のなかにも「偶像のディーラー」と化したものも何人かいるらしく、ここにはもうめばしいものはないと断言する。

結局石彫断片から約1,000点を選択して遺物リストに

登録し、写真撮影と計測をおこなった。学術資料として十分にたえるものである。そのなかには「ヴァースデーヴァ大王天子の至福を〔願って〕……寄進」と読めるカロシュティ文字碑文もまじっている。盗掘屋の目こぼしのひとつに古銭があった。伽藍の中心をなす仏塔まわりの回廊を発掘したが、床には一面に敷石があった。敷石の表面に小さなまるいくぼみがときおりあり、気にかかっていたが、ある日その謎がとけた。くぼみの中に銅貨が一枚づつ入っていた。全部で14枚みつけたが、当時の奉納のひとつのやり方だったらしい。14枚の銅貨の大部はヴァースデーヴァ王の肖像をもつ貨幣であることが判明し、奉納の時期あるいは敷石の時期もヴァースデーヴァ王の時代と推定できる。仏塔まわりは、大きく三度にわたって改築されており、敷石のしかれるのは第二期で、その年代がわかるわけである。

さびついた銅貨やさきへのべた碑文も、遺跡を離れて人手にわたれば一文の値うちもなくなってしまふ。しかしこうして発掘されれば絶大なる価値をもつ。

これまで幾度か名前を挙げたクシャン王ヴァースデーヴァは、中国の正史『三国志』魏書に、西暦230年、魏の朝廷に使節を送ってきた大月氏王の「波調」である。同じころ、倭の女王卑弥呼も同じ魏の朝廷に使節を送っているが（西暦239年）、当時の日本にはまだ立派な産物がなかったとみえ、生身の人間（男生口四人、女生口六人）を献上した。

さて発掘のさいごの二週間は、発掘した遺構の測量にあけくれた。日程と天候を気にしながら、休日返上の日々であった。発掘の仕事はすくなくなり、人夫たちは方眼紙に縮尺1/20でえがかれる私たちの測量図をながめながら、これはあの敷石だとか、あの壁だとかいいあって、私たちの作業をみまもっている。私たちの仕事が発掘あさりの盗掘といくぶんちがうと認識はじめたのは、どうやらこのさいごの時期になってかららしい。いま村人二名を指名して来シーズンまでの遺跡の管理を委ねているが、「偶像ディーラー」から「文化財保護者」にうまく変身してくれるかどうか。

▶筆者は、文部省科学研究費補助金（海外学術調査）により、昭和59年9月21日から昭和59年12月22日までガンダーラ仏教遺跡の総合調査のため、パキスタン及びインドへ外国出張されましたので、特に寄稿を御依頼したものです。

寄 稿

〈遼寧大学雑感〉

人文学部教授 三 宝 政 美

中国の東北三省といえ、北から順に黒龍江省、吉林省そして遼寧省を指す。その遼寧省の省政府所在地が瀋陽市である。瀋陽市は首都北京から汽車に揺られて8時間の場所にある。遼寧省の主要都市は、省都瀋陽の他には、貿易港としてまた風光明媚な観光地として有名な大連、世界史の教科書でお馴染みの露天掘りの撫順、炭鉱都市としてその名も高い鞍山などがある。

瀋陽市は重工業都市として、東北三省の政治・経済・文化の中心都市でもあり、人口300余万人は、上海、北京、天津に次ぐ全国第4番目の人口過密都市でもある。

遼寧大学（以下遼大）は瀋陽市の西北に位置し、省の重点大学として遼寧省全体を代表する総合大学である。1958年、それまでの東北財経学院、瀋陽師範学院、瀋陽露文専科学学校の三校が合併して開学され、今や1院10系3研究所までに拡充されて今日に至っている。1院とは、経済学院で、政治経済系、工業管理系、計算系統系、金融保険系の4系から構成されている。10系とは、法律系、歴史系、中文系、哲学系、外語系、数学系、物理系、化学系、生物系、電子計算機系をいう。系とは、日本の学部規模に相当すると思ってい。遼大の将来計画としては、近いうちにこの10系を4学院に改編し、すでにできている経済学院とともに5学院にしたいところにある。4学院とは、法律系を充実させて政治学院に、歴史、中文、哲学の3系を合体させて文学院に、外語系は現在の英語、日本語、ロシア語の3外国語科をさらに大きくして外国語学院に、そして数学、物理等の理系を集体させて理学院という構想である。3研究所とは、日本研究所、計算機科学研究所、人口理論研究所を指す。日本研究所は日本文化の多面的研究を目的としており、豊富な研究スタッフと高い研究水準を誇って全国にその存在を知られている。後者の2研究所については、残念ながらその活動を確認できなかった。

付属施設としては中央図書館があり、その蔵書数は120万余冊というが、文革期にかなり荒らされた模様で、その後の目録等の整備はまだ不十分との印象を受

けた。閲覧室は開架式をとって、教員用と学生用に分れており、学生用閲覧室はさらに文科と理科に分れている。教員には個人の研究室がなく、また深刻な住宅事情も手伝ってか教員用閲覧室がいつも満員の盛況であったのが印象に残っている。その他に報刊閲覧室があり、書庫に雑誌、新聞、全国の大学紀要類を収集し、教員、学生は閲覧室にて借り出すことができる。

図書館とは別に、院、各系、各研究所にそれぞれ個別の資料室がある。例えば中文系には2人の図書専門の事務官（但し、教員待遇とのこと）がいて、図書の選定、購入から整理まで一手に引き受けている。中文系の年間図書予算は6千元。大学教員の平均給与が1ヶ月70元程度とすれば、相当な金額といえそうだが、教員が120名もいると聞けば、一人頭にするとなればどの金額ではなくなる。また教員には年間60元の図書費が配分され、この場合の用途は各教員の自主的な判断に委ねられている。

資料室がそれぞれに完備されているから、あまり必要性がなかったこともあってか、これまで中央図書館の書庫には教授しか入ることができなかった。中国では一般に60代に達しないと教授になれない慣習があり、中文系120名の教員中、教授はたったの3名きりである。だから中国では教授というと、齢70の坂を越えて、杖を頼りにやっと教壇にのぼるといったイメージがある。こういうご老体が階段の多い、うす暗い書庫に足を踏み入れるとはあまり思えない。助手以上の教員が中央図書館の書庫に入ることが許されたのは昨年秋からのことであった。

文革後、四つの近代化が叫ばれるにつれ、大学内も着々と変革の手が打たれつつある。近代化、それは言い換えれば従来の政治主導からの解放である。遼大のもっとも大きな変革は、学長の責任制という新しい試みである。これは、大学の運営は学長を中心とした大学人の手によって行なわれるべきだという党中央の指令を承けたもので、具体的には学長の任命方法に質的な修正が加えられた。これまでは遼大内の党委員会が、大学の運営、人事を支配し、学長の任命にも直接関与

していたが、昨年の学長交代の時点より、党委員会は一步後退し、学内の総意を汲んで新学長を選出した。かくて新学長は前日本研究所所長の馮玉忠助教授（中国経済政策専攻）が任命された。馮学長は50代の若さ、中国経済政策畑では名高い研究者である。

学長は院、系、研究所の長（主任）を任免できるというのも、今回の学長責任制に伴なって生れた新たな試行である。馮学長は任命されるや一挙に従来の長（主任）の首をすげかえてしまった。大学改革に情熱を燃やす馮学長らしいやり方で、こうして馮学長を中心とした各長（主任）の強力な指導体制のもとに、遼大は確実な足どりをもって近代化の道を歩みつつある。

なお、学長、各長（主任）の任期は今のところない。そういえば、大学の教職員の停年も定まっていない。私の滞在中遼大は60歳定年制を実施する方向で検討中とのことを耳にしていたが、瀋陽を去る直前になって、確かな筋から来年の定年制は見合わされることになったとうかがった。但し党員の該当者は、率先して退職し、範を垂れるとのことである。たぶん全国的に下からの強い突き上げを受けて、党中央が妥協したものであろうが、これを党中央の指導力の弱まりととるか、また党中央の指導方針の弾力性ととるかは即座に断定しかねる。

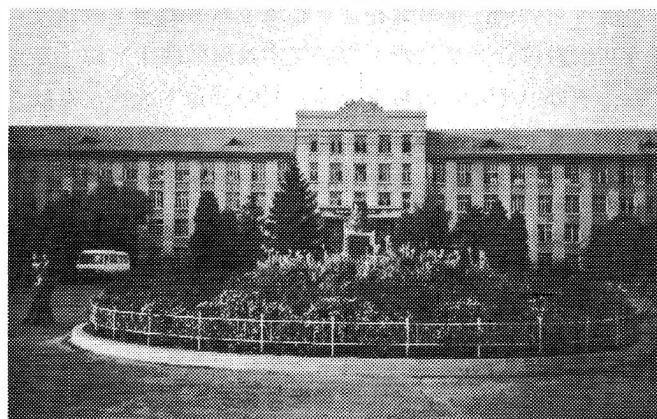
中国はどこに行っても、人があふれている。指導者鄧小平さんの苦衷が察せられるというものだ。大学にあっても、教官数の多さにびっくりする。すでに紹介したように、遼大の中文系は学生定員100人（1学年）に対し、教官は学生数をはるかにオーバーして120名もいる。どうしてこんなに多くなったのだろうか。その原因の一つは、文革期地方に追いやられていた知識人の文革後の落ちつき先として大学がかっこうの場所であったことが挙げられる。だから仄聞する限りでは、120名の中、50名は能力的、肉体的に授業を負担できぬということで、残る70名でも多く、交代で教官が休んでいるとのことである。日頃授業に追いまくられている我々には真に羨やましい話である。だが、最近になって、年間の授業計画を組む際に、教官は長（主任）の依頼を必要とするという聘任制が導入された。これまた近代化の施策の一つであるが、言ってみれば、長（主任）に教官を管理する職権を与えたことである。これは問題がないわけではない。仮りに常時授業計画からはずされた者の立場に立ってみたらどうだろう。恐らく居ずらくなって自ら職場換えを願うか、強制的に転出させられるかどちらかではある

まいか。その上、従来は授業をしてもしなくとも、持ち時間が多かろうと少なかろうと、給料は同じく支給されていた。これでは不公平だという声が強まり、改革の手はここにも及び、基本給は一定に支給するが、持ち時間に比例して奨励金をつけることになった。こうなると、授業担当希望者は増え、その分それをセレクトする長（主任）の権限が増大していくことになるであろう。

教官を年代別にしてみると、文革の後遺症がはっきりあらわれる。いわゆる文革世代（30代）の教官が実に少ないのである。例えば外語系日本語科がそれである。日本語科は最初3年制として1972年に開設され、5年後の77年度から4年制として今日に至っている。こうした歴史の若さもあずかって、10名たらずの教官は60歳前後と20代後半に偏して、中堅の40歳前後はたった一人という状態である。しかも20代後半の教官は5人いるが、5人とも77年度入学の同期生である。77年度という年は、文革期の思想重視による推薦制度を廃止し、久々に入学試験を復活させた最初の年で、この機の来るのを待ちかまえていた優秀な学生がどっと大学の門に殺到したのであった。77年度入学生は俊英ぞろいだった、とは日語系の教室に今に伝わる語り草とか。5人の若い教官はこの時の入学生で、卒業後期待されて母校に残ったわけである。それというのも、その上の文革世代が落ちこんでいたからこそこの話である。

文革世代は哀しい。まだなお社会的評価は低く、文革前の世代からは叩かれ、若草のように伸びだしてきた文革後の世代からは突きあげられ、その間に狭まってじっと耐えている。

中国の人達は口々に“あと10年”と、合言葉のように語りあって日々奮闘している。夢と希望を日常的次



遼寧大学図書館前広場
（中央の胸像は魯迅）

元で抱けること、それ自体が幸福である。中国という国家を航海中の船に喩えるならば、中国丸は近代化という大きな荒波をかぶりつつ、大きくうねりながらも前途めざして確実に進路をとっているといえるだろう。

最後に、馮学長、張副学長、劉、邱副処長、中文系

の高主任、高教授、劉助手、日語科の孫主任、專家樓の董さん、その他たくさんの遼大関係者にお世話になり、おかげをもって学术交流の任務を果たしたことをここに記して、こころから感謝の意を表わすしだいである。(1985. 2. 7)

寄 稿

〈帰国に当って〉

遼寧大学物理系助教授 仲 玉 林

昨年10月5日に、遼寧大学から最初の交流教官として富山大学に参り、4ヶ月がたちました。この間、富山大学ならびに教職員の方々が遼寧大学と私個人に対しまして、さまざまな面にわたって友好あふれるお心づかいと歓迎をして下さいましたことに、深い感謝の念を覚えるとともに、日本人民の道徳心、勤勉さそして頭脳の優秀さに深く感じ入りました。

富山に参りまして後、貴学からは宿舎のご配慮をいただき、工学部からは研究室を用意していただき、さらに図書館、情報処理センターの活用にまで便宜を計っていただきました。柳田学長、本田学生部長、宮下教授、女川助教授、三宝教授の皆様からは研究、学習、生活上の面にわたって多大なご配慮とご助力をいただきました。これらすべては富山大学が遼寧大学との友好学术交流に寄せる誠意と期待の現われであると思えます。さらに私の見識を広めるためにと、工場、他大学、新聞社等の参観に連れて行って下さり、おかげで私は日本人の生活、労働、科学研究の現状ならびに日本の社会について理解を深めることができました。

4ヶ月の間、毎日お相手をして下さった宮下教授、女川助教授ならびに電子素子工学講座の助手、院生から、私はたくさんの事を学びました。宮下教授からは「超L.S.I技術」のご講義を拝聴し、電気学会北陸支部の学術会議および液晶技術の発展に関する報告会に出さしてもらいました。女川助教授からは液晶の原理、製造、実験等に関する分野で種々ご指導ご助言をいただき、ともに液晶に関する論文を書くなど、おかげで私の学識は大いに向上いたしました。

また、私は日本の友人達の諸行動を通して見習うべき有益な点を見つけました。その第一点は、勤勉さです。各先生は毎日研究に没頭し、時には夜遅くまで仕

事をされています。第二点は、能率性の重視です。宮下教授、女川助教授は教育活動に従事する一方で、同時に多忙な研究活動をいたし、多くのすぐれた論文を発表されています。こうした無駄を省いた旺盛な研究態度は実に模範とすべきものです。

富山大学は新制の大学とはいえ、大学全体あるいは工学部の現状からみて、研究教育設備は整備され、人材は豊富であります。きっと将来は多くの学科が共同して研究の実をあげるものと確信しております。

4ヶ月間はあっという間でしたが、私が高まりましたものは大きいものがあります。帰国後は、富山大学学長及び諸先生が中国人民、そして遼寧大学にお示し下さった友誼と誠意を報告いたすとともに、両大学間の友好と学术交流のいっそうの発展のために微力を尽すことが、最初の交流教官としての私の任務と思うしだいです。

なおこの場をお借りして、資金を提供して下さいました田村科学技術振興財団、ならびにお世話になった富山大学庶務部の皆様、平岡庶務課長補佐に心からの感謝を申し上げます。

最後に、富山大学と遼寧大学の友好と学术交流のいっそうの発展、そして日中両国人民のいっそうの友好を祈念します。

(1985. 1. 26)

▶人文学部三宝政美教授及び遼寧大学仲玉林助教授は、本学と中国遼寧大学との友好学术交流の締結に基づく最初の交流教官であり、両先生にそれぞれの国の教育・研究等の状況について特に寄稿を御依頼したものです。

なお、三宝先生は、魯迅の研究のため遼寧大学に

において、昭和59年9月13日から同年12月15日までの間また仲玉林助教授は、半導体の研究のため工学部宮下和雄教授のもとで昭和59年10月5日から昭和60

年1月29日までの間、それぞれ研究に従事されていたものです。

職員消息

《改 姓》

教育学部

附属養護学校教諭 川辺 頼子
(旧姓 長戸)

《住所変更》

教育学部

附属養護学校教諭 川辺 頼子

《新任者》

工学部

臨時用務員 村岡 清忠
(管理係)

工学部

教 授 龍山 智栄

附属図書館

文部事務官 小林 雄二
(総務係)

主要行事

本 部

- 1月4日 御用始め
- 5～11日 経済学部推薦入学願書受付
- 7～13日 合宿研修・スキー講習会
(於 志賀高原ブナ平)
- 10日 特別設備費等説明会
- 11日 職員成人式
- 第6回入学試験管理委員会
- 第9回学寮補導委員会
- 18日 第9回評議会

- 第1回学長選考管理委員会
- 21日 共通第1次学力試験監督者説明会
(五福地区)
- 第5回学園ニュース編集委員会
- 22日 公開講座第2回委員会
- 23日 共通第1次学力試験監督者説明会
(工学部)
- 24日 肝臓機能検査
- 会計係長会議
- 富山大学学生健康保険組合理事会
- 26～27日 共通第1次学力試験
- 30日 東海・北陸地区国立学校等施設整備打合せ

会（於 名古屋大学）
31日 国立大学学生部長会議
（於 如水会館）

人文学部

1月9日 大学院設置推進委員会
学部図書委員会
10日 授業開始
学部教務委員会
11～18日 文学専攻科入学願書受付
16日 教授会
真率会総会及び同新年会
23日 肝臓機能検査
30日 教授会
紀要委員会

教育学部

1月8日 授業開始
9日 附属中学校第3学期始業式
10日 附属小学校第3学期始業式
附属養護学校第3学期始業式
12日 附属幼稚園第3学期始業式
14日 図書委員会
16日 学部補導委員会
教授会
21日 教育学部長候補者選挙委員会
23日 カリキュラム委員会
予算委員会
24日 肝臓機能検査
29日 附属学校運営委員会
30日 教授会
学部将来計画委員会

経済学部

1月7日 授業開始
14日 財務委員会
16日 学部教務委員会
教授会

学部図書委員会
17日 助手室業務運営委員会
23日 経済学部推薦入学試験
肝臓機能検査
24日 経済学部推薦入学試験選考委員会
財務委員会
28日 学部将来構想検討委員会
29日 論集委員会
30日 学部教務委員会
教授会

理学部

1月10日 授業開始
14日 学部教務委員会
16日 教授会
理学研究科委員会
真率会総会及び同新年会
18～24日 大学院理学研究科入学願書（2次）受付
23日 肝臓機能検査
29日 学科主任会議
学部施設委員会
30日 教授会
学科主任と学部施設委員会委員の合同会議

工学部

1月7日 授業開始
8日 温交会総会
9日 学部改革検討委員会
12～18日 大学院工学研究科入学願書（2次）受付
16日 学部改革検討委員会
19日 学科主任会議
22～23日 肝臓機能検査
23日 専任教授会
選考委員会
共通第1次学力試験監督者説明会
30日 教授会
工学研究科委員会
専任教授会

教 養 部

- 1月11日 授業開始
 23日 予算委員会
 教務委員会
 教授会
 24日 肝臓機能検査
 30日 補導委員会

附 属 図 書 館

- 1月10日 電算化ワーキンググループと富士通S Eと
 の打合せ
 21日 第7回商議会
 23日 肝臓機能検査
 30日 電算化ワーキンググループと富士通S Eと
 の打合せ

トリチウム科学センター

- 1月24日 肝臓機能検査
 28日 トリチウム科学センター運営委員会専門委
 員会

保健管理センター

- 1月11日 臨時健康診断（教育学部スキー実習「スキー
 I」受講者）」
 16日 臨時健康診断（寒中水泳参加者）
 24日 肝臓機能検査

経営短期大学部

- 1月9日 授業開始
 17日 第7回財務・将来構想合同委員会
 第11回教授会
 24日 肝臓機能検査
 29日 後学期授業終了
 30日 第12回教授会（持ち回り）

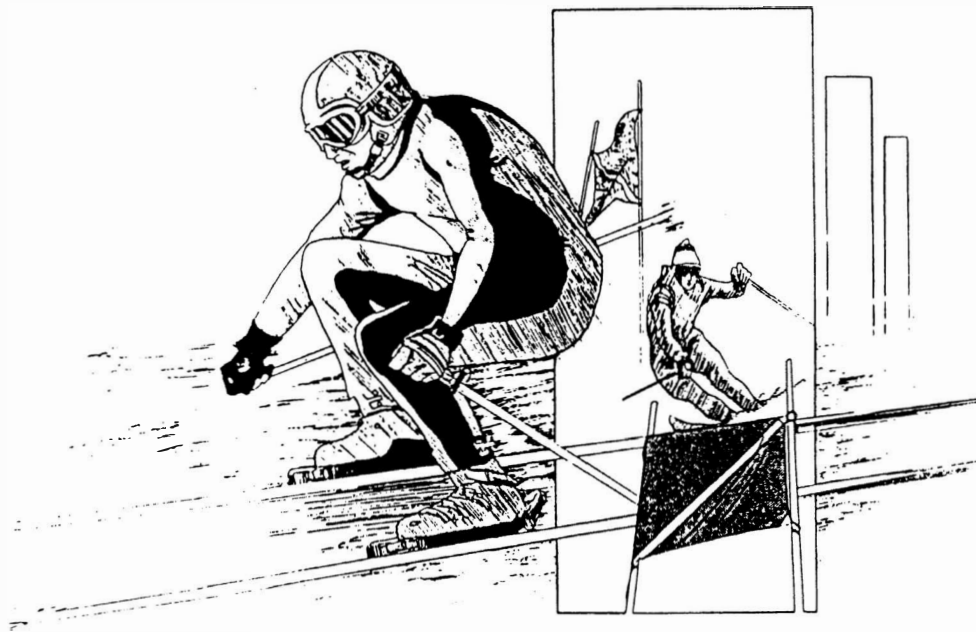
◎ 退庁、退室の際には、戸締りの徹底・電気、ガス
 の消し忘れ、タバコの吸殻の後始末に十分注意し、
 盗難の防止・火災の予防に心がけましょう!!

◎ 電気、ガス、水の省エネ・省資源に協力しましよ
 う!!

◎ 積雪・凍結時の自動車等の運転は、極力取り止め
 ましょう!!

◎ 積雪時は、構内除雪の障害とならないよう駐車に
 注意しましょう!!

◎ 構内での自動車等の運転は、教育・研究に支障を
 来さないよう安全運転に努め定められた交通方法、
 歩行者の安全及び騒音防止に努めましょう!!



編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 あけぼの企画
富山市曙町8-4
電 話 (33)3356(代)